

# 保育職志望学生の本来感と両親の養育態度の関連

折 笠 国 康

(令和4年3月)

郡山女子大学紀要 第58集別冊

(Vol.58) PP.55～65

郡山女子大学 郡山市開成3丁目25番2号

## 保育職志望学生の本来感と両親の養育態度の関連

The relationship between parents' nurturing attitudes and the sense of authenticity of students who wish to enter the childcare profession.

折笠 国康\*

Kuniyasu Orikasa

The purpose of this study was to examine the effects of parents' nurturing attitudes and the sense of authenticity of the prospective childcare students. The questionnaire was completed by 257 students who wish to enter the childcare profession.

Parents' controlling nurturing attitudes had a positive effect on the controlling nurturing attitudes of prospective childcare students and a negative effect on their sense of authenticity. A weak influence of nurturing attitudes from parents was confirmed on sense of authenticity and current awareness of students who wanted to work in childcare.

It was confirmed that the controlling nurturing attitudes of students who wanted to enter the childcare profession were strongly influenced by the controlling nurturing attitudes of their parents.

### I 問題と目的

昨今、国内では多くの人にとって職場や日常生活においてストレスを起因とするメンタルヘルス不調の状況下にあることが厚生労働省<sup>1)</sup>等から指摘されている。また、特に保育士や幼稚園教諭（以下、保育職従事者）を取り巻く実情として、磯野・鈴木・山崎<sup>2)</sup>は、保育職従事者のメンタルヘルスの不良を示唆している。業務の多様化や労働環境にかかわる諸問題も含め、保育職従事者のストレスフルな状況に起因するメンタルヘルスの不調、離職や保育の質の低下といったことが社会的な問題となっている。こうした状況を鑑み、保育職従事者のストレスに対するマネジメントや耐性にかかわる研究や知見が社会的な意義を持つことが考えられる。小塩・中谷・金子・長嶺<sup>3)</sup>が示唆するように、日常的なストレスを抱えながらもストレスを低減させ、精神疾患を発症せずに心理的、社会的に良好な状態を維持できる人が存在していることは大切な視点である。

---

\*郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科

近年の心理学研究において、ストレスフルな状況下でもストレスに負けずに回復する力を持ち、心理的、社会的に良好な状態を維持する自己概念としてレジリエンスが取り上げられている(野津<sup>4)</sup>, 小林・渡辺<sup>5)</sup>)。平野<sup>6)</sup>は、レジリエンスを先天的な要因である気質によって規定される資質的レジリエンスと、後天的に獲得しうる獲得的レジリエンスに分類した。すなわち、レジリエンスは後天的に高められる可能性がある自己概念であることを示した。また、野津<sup>4)</sup>や Werner & Smith<sup>7)</sup>は、安定した家庭環境や受容的な好ましい親子関係や養育態度が後天的にレジリエンスを高める要因であることを示唆した。これは先述の平野<sup>6)</sup>と符合するものであると考えられる。

レジリエンスとの相関が示され、後述するようにストレスの低減効果の示唆がなされ、昨今の心理学的な研究において適応の指標としても用いられている自己概念の1つに本来感がある。本来感とは伊藤・小玉<sup>8)</sup>により「自分自身に感じる自分の中核的な本当らしさの感覚の程度」と定義され、大学生を対象とした調査により、心理的 well-being に正の影響を及ぼすことが明らかにされ、自律性の促進に貢献することが特徴的な自己概念である。本来感は中核的な自己によって自身が機能している感覚から得られる最良の自尊感情(optimal self-esteem; Kernis,<sup>9)</sup>)と概念的には近似であると考えられる(伊藤・小玉<sup>8)</sup>)。また、折笠・庄司<sup>10) 11)</sup>等、最近の心理学的研究において精神的健康や適応の指標として利用されている自己概念であり、適応的な機能や効果から今後の知見の蓄積が期待されている。

折笠・庄司<sup>12)</sup>は、中学生を対象とした研究において、中学生の学校ストレスの本来感による低減効果についての検討を行った。その結果、生徒指導上の問題が山積する中学校において、本来感による中学生が認知する学校ストレスの3因子(教師、友人、学業)すべてに対する有意な低減効果と、本来感による直接的な学校忌避的感情に対する有意な低減効果が確認された。また、折笠<sup>13)</sup>では保育職従事者の本来感と自己受容、自尊感情、レジリエンスそれぞれの間の有意な中程度の正の相関が確認されており、本来感とレジリエンスの機能や発達、規定要因等についての類似性が予測される。すなわち、先述したレジリエンスは、安定した家庭環境や受容的な好ましい親子関係や養育態度といった後天的な要因に規定されるといった知見から、良好な両親の養育態度が本来感を規定する要因の1つであることが考えられる。

杉浦ら<sup>14)</sup>は、親の養育態度と大学生のソーシャル・スキルの関連を検討し、特に母親の養育態度が青年期のソーシャル・スキルに影響を与えることを明らかにした。他にも、辻<sup>15)</sup>は、高校生を対象とした調査において、親の養育態度に対する認知が子どもの学習意欲に及ぼす影響について検討した。その結果、子どもは親から統制の強い養育を受けた場合は意欲的な学習が行われなくなり、親からの情緒的支持がある場合は学習意欲は向上することが示唆された。中道<sup>16)</sup>は、養育者の養育態度は、幼児の発達に関わる大きな要因であることを示唆し、父親・母親の養育態度が幼児の自己制御に及ぼす影響について明らかにした。奥田<sup>17)</sup>は、両親の養

育態度を抑制的態度、教示・指導的態度、指示的態度、受容的態度に分類する立場で幼稚園児の自律性との関連を検討した。その結果、両親がともに受容的な養育態度であった場合は、両親がともに教示・指導的な養育態度や母親が受容的ではない養育態度の場合よりも自律性が高いことが明らかとなった。また、Baumrind<sup>18)</sup> は、両親の養育態度からの影響は幼児期から青年期にわたり一貫していることを示した。これ等多くの先行研究から両親の養育態度が子ども（保育職志望の学生）の自己概念や後の自身の養育態度の質や方向性に影響を与えることが考えられる。

以上のことから、心理的 well-being に正の影響を及ぼし自律性を高め、保育職従事者のストレス認知の軽減やストレス耐性の構築などを可能にすることが考えられる本来感に正の影響を与える要因として幼少期に受けた両親からの養育態度を想定し、本来感と養育態度の関連性や因果関係について検討することを本研究の目的の1つとした。本研究における本来感の定義は先述の伊藤・小玉<sup>8)</sup> に準じるものとした。

中道・中澤<sup>19)</sup> は、Baumrind<sup>20)</sup> を基に両親の養育態度について因子分析を行い、応答性、統制の2因子を抽出した。中道・中澤<sup>19)</sup> においては、応答性とは、子どもの意図・欲求に気付き、愛情のある言語的・身体的表現を用いて、子どもの意図をできる限り充足させようとする行動と定義され、統制とは、子どもの意志とは関係なく、親が子どもにとって良いと思う行動を決定し、それを強制する行動と定義した。本研究における両親の養育態度も応答性と統制の2因子で捉え、その定義も中道・中澤<sup>19)</sup> に準じるものとした。また、保育職従事者の養育態度は自身が経験した養育態度に影響を受けることが考えられることから、保育職志望学生の養育態度と自身が経験した養育態度との関連について検討することも本研究の目的とした。

本研究によって得られる知見により、保育職従事者のメンタルヘルスを考慮した精神的な健康を支えるこれからの研究にも寄与することが期待できる。また、本来感に関する新たな示唆や知見は、保育職従事者の精神的健康や離職問題の解決のみならず、時代に適合した子どもの心身の成長を可能にするよりよい保育を追求する上でも重要な視点となることが考えられる。

以上より本研究の仮説を具体的にまとめると、両親の応答的な養育態度は保育職志望学生の持ち合わせる応答的な養育態度と本来感に対してそれぞれ正の影響を与え、両親の統制的な養育態度は保育職志望学生の持ち合わせる統制的な養育態度に正の影響を、本来感に対して負の影響をそれぞれ与えることが予測された。

## II 方法

### 1. 調査対象者

東北地方X県の私立短期大に在籍し、保育士、幼稚園教諭を志望する女子学生 266 名（1年

138名、2年128名)を対象に回答を求めた。欠損値があるものなど、回答に不備があるものを削除し、合計257名(1年137名、2年120名)の回答を分析の対象とした。

## 2. 調査内容

### (1) 本来感尺度

伊藤・小玉<sup>8)</sup>により作成された尺度「個人が自分らしくあると感じている全般的な感覚を測定する尺度」7項目について5件法で回答を求めた。質問項目は「いつも自分らしくいられる」「人前でもありのままの自分を出せる」などである。尺度の得点は7点～35点であった。

### (2) 親の養育態度尺度

中道・中澤<sup>19)</sup>により作成された応答性、統制の二次元からなる尺度16項目を用いた。応答性は「子どもの意図・欲求に気付き、愛情のある言語的・身体的表現を用いて、子どもの意図をできる限り充足させようとする行動」と定義され、統制は「子どもの意志とは関係なく、親が子どもにとって良いと思う行動を決定し、それを強制する行動」と定義され、質問項目はそれぞれ「あなたが一人で遊んでいて、退屈そうだなと思った時加わって一緒に遊ぶ」、「あなたが自分のやるべきことをやらないとき、「やりなさい」と言う」などであり、5件法で回答を求めた。尺度得点の範囲は10点～50点であった。

### (3) 自分の養育態度尺度

中道・中澤<sup>19)</sup>により作成された応答性、統制の二次元からなる尺度16項目に対して、自分が子どもとかかわるときにどのくらい当てはまる、もしくは当てはまると思うかという教示分を添えて回答を求めた。応答性、統制の定義は中道・中澤<sup>19)</sup>に準じた。

質問項目はそれぞれ「あなたが一人で遊んでいて、退屈そうだなと思った時加わって一緒に遊ぶ」、「あなたが自分のやるべきことをやらないとき、「やりなさい」と言う」などであり、実際の自分の養育態度に置き換えるような指示を加え、5件法で回答を求めた。尺度得点の範囲は10点～50点であった。

## 3. 調査実施手続き

調査に関する倫理的配慮等について、学科主任からの了承を得た後に調査を実施した。回答はすべて無記名で行われ、学生によりランダムに回収され、個人が特定できないように配慮した。また、質問への回答は自由意志であること、成績には関係しないこと、調査の趣旨について文章を通して説明を行った。

#### 4. 調査実施期間

2020年の9月から10月にかけて実施した。

#### 5. 分析ソフトウェア

本研究の分析は、IBM SPSS STATISTICS 26 を利用した。

### Ⅲ 結果

#### 1. 本来感尺度の構造、信頼性の検討

本来感尺度7項目の平均および標準偏差を算出し、平均±1SDの値を確認したところ、理論上限を超えた項目は確認されなかった。その結果をTable 1に示した。逆転項目の処理を行った後、本来感尺度7項目に対して、変数間の相互関係を観察することを目的に主成分分析を行った。その結果、固有値は第1主成分と第2主成分との間に最も大きな減衰が見られた。「他人と自分とを比べて落ち込むことが多い(逆転項目)」の項目1つを除いたすべての項目が、第1主成分に.61以上で負荷していたため内的整合性が確認された。そこで、この逆転項目を除いた6項目で、再度主成分分析を実施し、その結果、すべての項目が第1主成分に.65以上で負荷し、寄与率は55.01%であった。その結果をTable 2に示した。 $\alpha$ 係数は.85、折半法による相関は.84で、十分な信頼性が確認された。

以上の結果から、本研究では以後、本来感尺度を6項目からなる一因子構造の尺度として用いて、以後の分析を行うこととした。

Table 1 本来感尺度の記述統計量

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i> +1 <i>SD</i>	<i>M</i> -1 <i>SD</i>
いつも自分らしくいられる	3.51	1.000	4.51	2.51
いつでも揺るがない“自分”が出せる	3.11	1.042	4.15	2.07
人前でもありのままの自分が出せる	3.09	1.206	4.29	1.88
他人と自分を比べて落ち込むことが多い*	2.47	1.256	3.73	1.22
自分のやりたいことをやることができる	3.52	.98	4.50	2.54
これが自分だ、と実感できるものがある	3.40	1.135	4.54	2.27
いつも自分を見失わないでいられる	3.10	1.085	4.19	2.02

Table 2 本来感尺度の主成分分析結果

	負荷量
いつも自分らしくいられる	.81
いつでも揺るがない「自分」をもっている	.78
人前でもありのままの自分が出せる	.76
自分のやりたいことをやることができる	.72
これが自分だ、と実感できるものがある	.71
いつも自分を見失わないでいられる	.65
固有値	3.30
寄与率 (%)	55.01

## 2. 各尺度の2変量相関

本来感、両親の養育態度（応答性、統制）、保育職志望学生の養育態度（応答性2、統制2）について、それぞれ逆転項目に対する処理を施した後に、各下位尺度に含まれていた項目の平均を算出し、各尺度得点とした。それぞれ相関を算出した（Table 3）。

その結果、本来感と他の尺度との関連については、応答性 ( $r=.22, p<.001$ )、応答性2 ( $r=.14, p<.05$ )、統制2 ( $r=.14, p<.05$ ) と、それぞれに有意な正の相関が認められ、統制とは有意な相関は確認されなかった。

応答性2と他の尺度との関連については、応答性 ( $r=.34, p<.001$ )、統制 ( $r=.31, p<.001$ ) と、それぞれに有意な正の相関が認められた。統制2と他の尺度との関連については、応答性 ( $r=.19, p<.001$ )、統制 ( $r=.65, p<.001$ )、応答性2 ( $r=.27, p<.001$ ) と、それぞれに有意な正の相関が認められた。統制と応答性との関連は、有意な正の相関が認められた ( $r=.22, p<.001$ )。

Table 3 各尺度間の相関係数

	統制	応答性2	統制2	本来感
応答性	.22***	.34***	.19***	.22***
統制		.31***	.65***	<i>n.s.</i>
応答性2			.27***	.14*
統制2				.14*

\* $p<.05$ , \*\*\* $p<.001$

## 3. 両親の養育態度が本来感に及ぼす影響

両親の養育態度（応答性、統制）を独立変数として、本来感に与える影響を検証することを目的として、強制投入法による重回帰分析を行った。独立変数間の相関関係に起因して、多重共線性の問題が危惧されたため、VIF (variance inflation factor) の値等から多重共線性の問題の有無を判断することが重要である。したがって、重回帰分析を行う前に重回帰モデルに

対して、多重共線性の診断のため VIF の値を求めた。その結果、VIF の値は全て 10 未満の値を示し (VIF=1.15 ~ 1.81)、多重共線性の問題はないと判断することができた。また、Durbin-Watson ratio は 2.01 であり、本分析の重回帰式の残差のランダム性も確認された。

重回帰分析の結果、統制が本来感得点に与える影響は確認されなかった。応答は本来感に有意に正の影響 ( $\beta = .18, p < .01$ ) を与えることが確認された。その結果を Table 4 に示した。

以上の結果から、本研究においては、両親の養育態度の中でも応答の因子は、保育職志望の学生の本来感を促進する働きが確認された。

Table 4 本来感を従属変数とする重回帰分析結果

応答性	統制	$R^2$ (調整済み決定係数)
.18**	<i>n.s.</i>	.05**

\*\* $p < .01$

#### 4. 両親の養育態度が保育職志望学生自身の養育態度 (応答性 2) に与える影響

両親の養育態度 (応答性、統制) を独立変数として、保育職志望学生の養育態度 (応答性 2) に与える影響を検証することを目的として、強制投入法による重回帰分析を行った。独立変数間の相関関係に起因して、多重共線性の問題が危惧されたため、VIF (variance inflation factor) の値等から多重共線性の問題の有無を判断することが重要である。したがって、重回帰分析を行う前に重回帰モデルに対して、多重共線性の診断のため VIF の値を求めた。その結果、VIF の値は全て 10 未満の値を示し (VIF=1.05)、多重共線性の問題はないと判断することができた。また、Durbin-Watson ratio は 2.05 であり、本分析の重回帰式の残差のランダム性も確認された。

重回帰分析の結果、応答性と統制の両方が保育職志望学生の養育態度 (応答性 2) に対して、それぞれ有意に正の影響 ( $\beta = .28, p < .01$ ,  $\beta = .25, p < .01$ ) を与えることが確認された。その結果を Table 5 に示した。

以上の結果から、両親の養育態度の応答性、統制の両因子が、保育職志望の学生の養育態度 (応答性 2) を促進する働きが確認された。

Table 5 応答性 2 を従属変数とする重回帰分析結果結果

応答性	統制	$R^2$ (調整済み決定係数)
.28**	.25**	.17**

\*\* $p < .01$

## 5. 両親の養育態度が保育職志望学生自身の養育態度（統制2）に与える影響

両親の養育態度（応答性、統制）を独立変数として、保育職志望学生の養育態度（統制2）に与える影響を検証することを目的として、強制投入法による重回帰分析を行った。独立変数間の相関関係に起因して、多重共線性の問題が危惧されたため、VIF（variance inflation factor）の値等から多重共線性の問題の有無を判断することが重要である。したがって、重回帰分析を行う前に重回帰モデルに対して、多重共線性の診断のためVIFの値を求めた。その結果、VIFの値は全て10未満の値を示し（VIF=1.05）、多重共線性の問題はないと判断することができた。また、Durbin-Watson ratioは2.01であり、本分析の重回帰式の残差のランダム性も確認された。

重回帰分析の結果、応答性が保育職志望学生の養育態度（統制2）に与える影響は確認されなかった。統制は本保育職志望学生の養育態度（統制2）に有意に正の影響（ $\beta = .64, p < .001$ ）を与えることが確認された。その結果をTable 6に示した。

以上の結果から、本研究においては、両親の養育態度の中でも統制の因子は、保育職志望の学生の養育態度（統制2）を促進する働きが確認された。

Table 6 統制2を従属変数とする重回帰分析結果

応答性	統制	$R^2$ （調整済み決定係数）
<i>n.s.</i>	.64***	.42***

\*\*\* $p < .001$

## IV 考察

本研究の目的は保育職志望学生の本来感と両親の養育態度との関連について検討することであった。因果関係の検討に先立ち、本来感、両親の養育態度（応答性、統制）、保育職志望学生の養育態度（応答性2、統制2）のそれぞれの相関を検討した。その結果、両親の養育態度（応答性）と本来感、保育職志望学生の養育態度（応答性2）との間にそれぞれ弱い正の相関が確認された。これ等は両親の好ましい対応が子どもの好ましい適応的な状態に影響を及ぼすといった先述の野津<sup>4)</sup>や Werner & Smith<sup>7)</sup>が示唆する、安定した家庭環境や受容的な好ましい親子関係や養育態度が後天的にレジリエンスを高める要因であるとすることを補完するものであると考えられる。また、両親の養育態度（統制）と本来感との間に相関は確認されず、保育職志望学生の養育態度（統制2）との間に中程度から高い正の相関が確認された。子どもの意志とは関係なく、親が子どもにとって良いと思う行動を決定しそれを強制する行動であると定義される統制は、自分らしくいられる感覚である本来感とは関連しにくく、保育職志望の学生自身

の統制的な養育態度を助長する方向に働くことが容易に考えられる。

これ等の相関分析の結果を基に、本来感と保育職志望学生の養育態度（応答性2、統制2）を従属変数、両親の養育態度（応答性、統制）を独立変数とした強制投入法による重回帰分析を行い、因果関係の検討を行った。その結果、本来感に対しては両親の養育態度の応答性から正の影響を確認することが出来たが、統制からの影響は確認されなかった。これにより、本研究の仮説である、両親の応答的な養育態度は本来感に対して正の影響を与え、両親の統制的な養育態度は本来感に対して負の影響を与えることを予測した本研究の仮説は部分的に支持されることとなった。伊藤・小玉<sup>8)</sup>では、本来感が他者との積極的な関係性にかかわる概念であることが示唆されている。折笠<sup>13)</sup>では、本来感は共同体感覚(勇気)の3因子(自己受容、他者信頼、他者貢献)とそれぞれに関連した概念であることが確認されている。これ等の先行研究の示唆を鑑み、本研究によって示された結果は、本来感の他者との適応的な好ましい関係性にかかわる1つの側面を示唆するものであることが考えられる。

保育職志望学生の養育態度（応答性2）に対しては、両親の養育態度の応答性と統制の両方からそれぞれ同程度の正の影響を確認することが出来た。因果関係の検討に先駆けて行われた相関分析でも、両親の養育態度の2要因である応答性と統制は、保育職志望学生の養育態度（応答性2）とそれぞれ有意な弱い正の相関が確認され、さらに、保育職志望の学生の養育態度の2因子である応答性2と統制2の間においても有意な弱い正の相関が確認できた。すなわち、養育態度の2因子である応答性と統制ははっきりと弁別される概念ではなく、多少なりとも共通の性質や要素をもつものであると捉えることが考えられる。養育態度という文脈の中において、応答的な中にも統制的な要素が、統制的な中にも応答的な要素が存在する可能性があることが示されたとも考えられる。しかしながら、本研究においては両親の養育態度から保育職志望学生の養育態度（応答性2）に対して、有意ではあるが標準偏回帰係数や決定係数の値も小さく、保育職志望の学生の現在の応答性（応答性2）を規定するのは、他の要因による影響が大きいと考えることができる。

保育職志望学生の養育態度（統制2）に対しては、両親の養育態度の応答性からの影響は確認されず、統制からの影響のみが確認された。これにより、本研究の仮説である、両親の統制的な養育態度は保育職志望学生の養育態度（応答性2）に対して正の影響を及ぼすという仮説は指示されたと考えられる。標準偏回帰係数や決定係数の値も比較的大きく、保育職志望学生の現在の養育態度の統制的要素は、両親による統制的な養育態度に起因するところが大きいとの解釈が可能である。また、統制的な態度は、その定義から自他の生き辛さにかかわるイラショナルなピリーフとして捉えることができ、河村<sup>21)</sup>がその存在を明らかにした教師特有のピリーフに近い概念であるとの解釈が可能である。教師特有のピリーフを強く持つ教師は児童にとって好ましい教育環境にはなりにくく、児童も将来的にイラショナルなピリーフを持つにいたる

ことが考えられる。

両親からの応答的な養育態度を経験したとしても、統制的な保育所や幼稚園、小中学校で教師特有のビリーフの強い保育者や指導者にかかわることで、応答性が育ちにくくなることも考えられる。保育職志望学生の養育態度（統制2）に対しては、自身が経験した統制の影響が起因するという本研究から示された知見は、河村<sup>21)</sup>を補完し得るものであると考えられる。また、保育職従事者や子育てをする親自身のストレスマネジメントと、子どもの精神的な健康や適応を育むという視点において注目に値する知見であると考えられる。

## V 今後の課題

本研究では、両親の応答的な養育態度は保育職志望学生の持ち合わせる応答的な養育態度と本来感に対してそれぞれ正の影響を与え、両親の統制的な養育態度は保育職志望学生の持ち合わせる統制的な養育態度に正の影響を、本来感に対して負の影響をそれぞれ与えることを仮説として検討が行われた。保育職志望学生の本来感と現在の応答性には両親からの応答的な養育態度の弱い影響が確認され、現在の統制的な養育態度には両親からの統制的な養育態度からの強い影響が確認された。

こうした本研究の結果を基に、保育職従事者の持ち合わせる統制的な養育態度は子どもの統制的な思考や認知に影響を及ぼすことが考察された。また、統制的な養育態度は自他の生き辛さを助長するイラショナルなビリーフである教師特有のビリーフとの類似性が考察された。保育職従事者のストレスに対するマネジメントや耐性にかかわる研究の一助として本研究の結果や考察されたことがらを実証的に検討していくことが今後の課題であると考えられる。また、本研究では両親からの養育態度が直接的に現在の養育態度に影響を与えるモデルを想定したが、今後は何かしらの媒介変数の存在を考慮したモデルについて検討を行うことで、より詳しい知見が得られることが考えられる。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省 2012 労働者健康労働状況調査 [https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/h24-46-50\\_01.pdf](https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/h24-46-50_01.pdf) (2021年8月15日)
- 2) 磯野登美子・鈴木みゆき・山崎喜比古 2008 保育所で働く保育士のワークモチベーションおよびメンタルヘルスとそれらの関連要因. *小児保健研究*, **67**, 367-374.
- 3) 小塩真司・中谷素之・金子一史・長嶺伸治 2002 ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性 -精神的回復力尺度の作成-. *カウンセリング研究*, **35**, 57-65.
- 4) 野津友美枝 2014 父親・母親の養育態度が青年期のレジリエンスに及ぼす効果 *京都学園大学人間文化学部 人間文化学部学生論文集*, **13**, 27-36.

- 5) 小林朋子・渡辺弥生 2017 ソーシャルスキル・トレーニングが中学生のレジリエンスに与える影響について. *教育心理学研究*, **65**, 295-304.
- 6) 平野真理 2011 中高生における二次元レジリエンス要因尺度 (BRS) の妥当性- 双生児法による検討. *パーソナリティ研究*, **20**, 50-52.
- 7) Werner, E. E. & Smith, R. S. 1982 *Vulnerable but invincible: A longitudinal study of resilient children and youth*. New York: McGraw-Hill.
- 8) 伊藤正哉・小玉正博 2005 自分らしくある感覚 (本来感) と自尊感情が well-being に及ぼす影響の検討. *教育心理学研究*, **53**, 74-85.
- 9) Kernis, M.H. 2003 Toward a conceptualization of optimal self-esteem. *Psychological Inquiry*, **14**, 1-26.
- 10) 折笠国康・庄司一子 2010 中学生の本来感の検討 学級風土による違いとの関連から. *共生教育学研究*, **4**, 13-22.
- 11) 折笠国康・庄司一子 2012 中学生の本来感が学級適応に与える影響. *教育カウンセリング研究*, **4**, 11-20.
- 12) 折笠国康・庄司一子 2019 中学生の学校ストレスが学校忌避的感情と関係性攻撃に与える影響, 及び, 本来感によるストレス低減効果. *学級経営心理学研究*, **8**, 17-28.
- 13) 折笠国康 2021 保育職従事者の本来感と勇気としての共同体感覚との関連. *郡山女子大学紀要*, **57**, 41-49.
- 14) 杉浦浩子・杉浦文香・杉浦春雄 2007 親の養育態度が子どものソーシャルスキルに及ぼす影響. *健康レクリエーション研究論文集(実践報告書)*, **4**, 15-27.
- 15) 辻美咲 2018 親の養育態度に対する認知が子どもの学習意欲に及ぼす影響. *立教大学臨床心理学研究*, **12**, 1-10.
- 16) 中道圭人 2013 父親・母親の養育態度が幼児の自己制御に及ぼす影響. *静岡大学教育学部研究報告(人文・社会・自然科学篇)*, **63**, 109-121.
- 17) 奥田援史 1996 養育態度のタイプと幼児の自律性. *滋賀大学教育学部紀要(教育科学)*, **46**, 1-7.
- 18) Baumrind, D. 1991 The influence of parenting style on adolescent competence and substance use. *Journal of Early Adolescence*, **11**, 56-95.
- 19) 中道圭人・中澤潤 2003 父親・母親の養育態度と幼児の攻撃行動との関連. *千葉大学教育学部研究紀要*, **51**, 173-179.
- 20) Baumrind, D. 1967 Child care practices anteceding three patterns of preschool behavior. *Genetic Psychology Monographs*, **75**, 43-88.
- 21) 河村茂雄 2000 教師特有のピリーフが児童に与える影響. 風間書房.